

産業医慢性痛セミナー アンケート集計結果

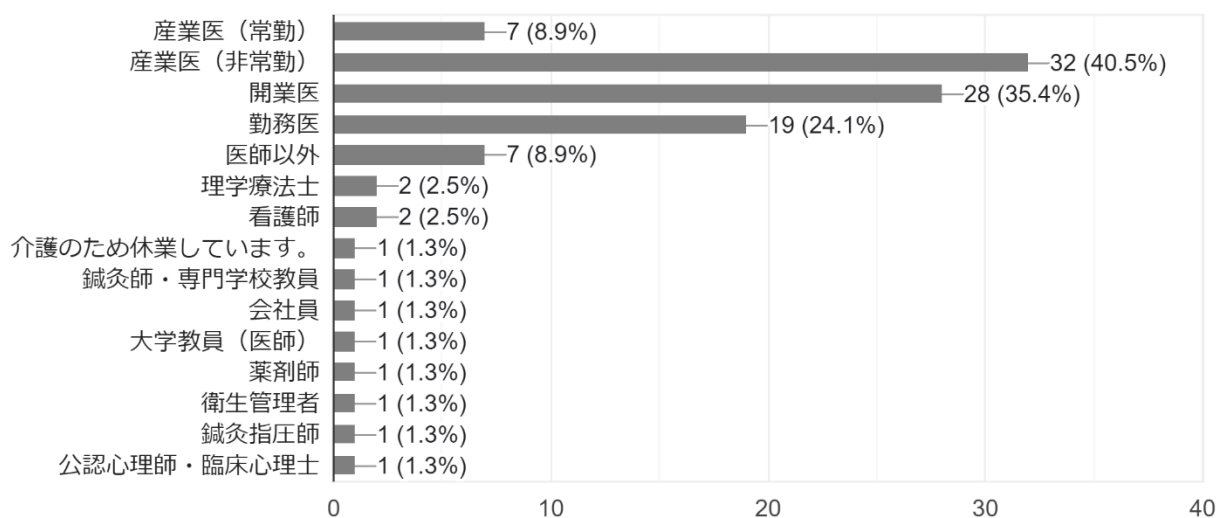
2022年12月10日（土）15:00~17:10（ハイブリッド開催）

参加者数 計 182 名

（大阪会場 82 名 滋賀会場 44 名 オンライン 50 名 登壇者 6 名）

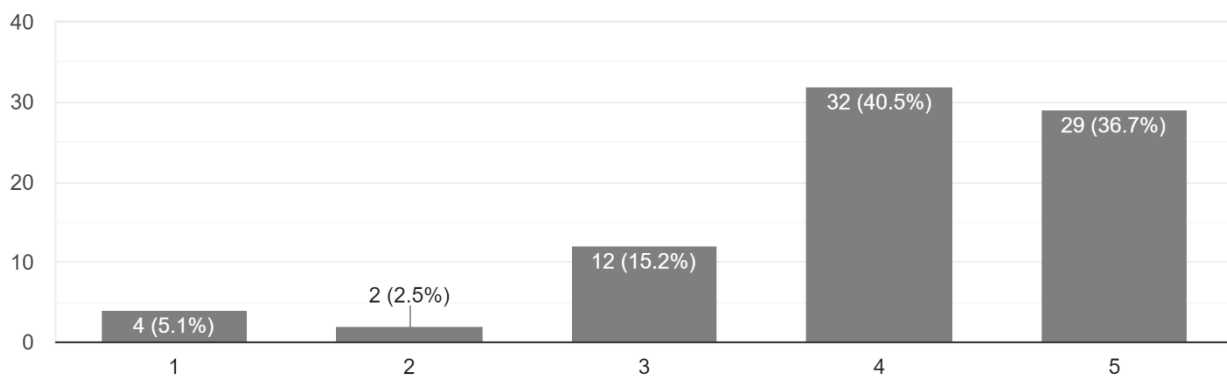
あなたの職種を教えてください。（複数回答可）

79 件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。

79 件の回答

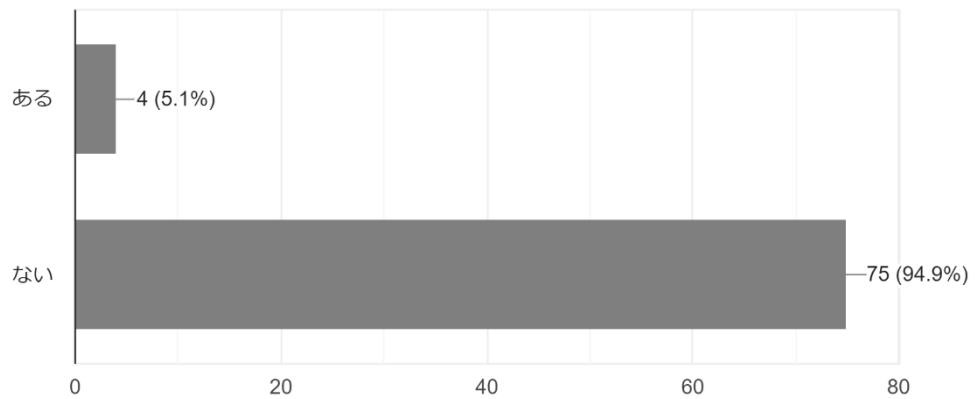


まったくよくなかった

とてもよかった

今年度に慢性痛診療に関連し、本モデル事業の協力医療機関と連携されたケースがありましたか？

79件の回答



産業医慢性痛セミナーのよかった点を挙げてください。

- ・榎原教授の講演が特に勉強になりました
- ・座位時間の客観的評価
- ・内科医のため、腰痛などの情報があまりなく、勉強になりました。
- ・現状を知れた事。
- ・腰痛に対する先入観に気付けた点です。
- ・日頃聞けない話で勉強になりました
- ・腰痛と座位時間の相関性は乏しいこと等、知らなかったことを学べた
- ・長時間座位姿勢のエビデンス
- ・こういう解決方法をとる患者様もいらっしゃるということがわかった。
- ・慢性疼痛にこれほど熱心に取り組んでおられる先生がいることに感銘を受けた
- ・文献提示が多く大変参考になりました
- ・広島大卒の女性医師の講演が臨床に則しており特に勉強になりました
- ・職場環境の整備のヒントをいただきました。
- ・慢性疼痛と思われる職員も多数おり、理解ができた。また対応へのヒントになった。
- ・講演内容のバランスがよかった
- ・慢性疼痛患者への対応法、痛みで現在解明されているメカニズム、などの情報が得られた。
- ・日常生活における大切さが理解できました。
- ・具体例が良かった
- ・リモートなので、滋賀県まで出向かずに、地元でセミナーが聞ける手軽さ。
- ・自己効力感は重要と再認識しました

- ・地域連携の理論から実践例までのつながりが分かる内容だったこと。
- ・医療者は医学的知見を多く持っているが人間工学の視点をもっていることは少ないため、科学的に示してもらえたことが良かった。”
- ・他施設間との協力態勢があることを知った
- ・分かりやすかった。
- ・慢性痛について、産業医として事業所で話題になった事はありませんが、悩んでいる人はいるのではないかと思いました。
- ・連携出来ることを知った。
- ・大阪でも受講できる　ペインにかかる前の段階での慢性痛予防策がわかる
- ・腰痛と座位時間の関係についての新しい研究について知れてよかったです
- ・慢性痛に対する多角的なアプローチの必要性を丁寧に説明いただけて勉強になりました。
- ・腰痛をデータで理解するというアプローチ
- ・慢性痛に対して協力医療機関があることを知ることができた。
- ・学びが多く、慢性痛へのアプローチの幅を広げることができそうです
- ・通り一遍の話ではなく、踏み込んで学術的な内容
- ・さまざまな観点の知識が入った。
- ・連携を行うことの必要性が勉強になりました
- ・腰痛の工学的な御講演がとても参考になりました
- ・身体不活動の考え方
- ・多数の文献のレビューを勉強させて頂きました。
- ・腰痛に関しての、新しい知見が得られえた。「
- ・職場のスタッフ達が、持てるスキルを最大限発揮し成長を続け、生き生きと日々を過ごして貰えるように今後も今回の様なセミナーを受講したいと思いました。
- ・比較的新しい疫学的な見解を聞いたこと。
- ・心因性に因る慢性疼痛
- ・慢性疼痛を心身医学や精神医学で扱ったこと
- ・モデル事業のことを知らなかったので、非常に興味深かった。
- ・痛みを原因とした就業困難なケースは環境調整の範囲の縮小に伴って多くなってきている。問題解決を専門的な視点で行ってもらえる選択肢が増えることは非常に有用でありありがたい。
- ・これまでの常識にとらわれることなく、データ（センサー）を用いることで別の視点ができる
- ・新しい知見を得ることができた
- ・実際の診療に携わる先生がご講演して下さり、アドバイスくださるので勉強になります。
- ・慢性痛の患者を紹介できる病院があることがわかった

- ・未知の分野を啓蒙していただいた
- ・人間工学の視点からのリモート在宅ワーク中の筋骨格系の痛みへの考察
- ・実際の症例の話も聞いたこと
- ・疼痛について、整形外科的、(職場環境等)産業医学的、精神医学的等、多方向からの御講演で、理解し易く勉強になりました。
- ・慢性疼痛に関連する仕事と治療の両立支援についてのご講演を拝聴できました。
- ・人間工学的観点から、腰痛に関する新しい知見を得る事ができた。慢性疼痛に関する治療目標、精神科との連携等、幅広い知識が得られた。
- ・慢性疼痛に対応していただける施設がある事がわかった事。

産業医として慢性の痛みの問題についてご意見ををお願いします。

- ・対応が難しい
- ・あまりしていない慢性痛の健康教育も考えたいです。
- ・精神的な心の痛みは多いですが、肉体的痛みは案外少ないです。
- ・経験から言って、精神疾患や人格障害を持っている方も多いという印象がある。
- ・メンタル面の受け止めが難しい
- ・従業員が快適に仕事出来ること、今の日本ではそれが出来ていないことが問題と分かりました。
- ・産業医ではありませんが、痛みの原因に対する対策(上流思考)を包括的に行うことが喫緊の課題と考えます。
- ・介護施設の産業医なので、腰痛のある職員が多い。
- ・痛み緩和は重要だと認識しました
- ・産業医活動の一環として、問題意識を持ちたい。
- ・完治はしなくても理解し対応されるのが安心に繋がる
- ・痛みを取ることが目的でないと知った
- ・安全衛生委員会で話題にして、従業員の方々にも知っていただく事を考えています。
- ・腰痛対策が課題。
- ・ペインにかかる患者は氷山の一角なので、その前の慢性痛対策が必要
- ・慢性痛にならないように患者への教育の普及が進めばよいと思います
- ・過度な安静を避けるべきなことは理解できるのですが、逆にいえばどの程度の身体活動までが許容できるかが悩ましいです。
- ・慢性になると痛くてもごまかしながら仕事をしがちなので、個々に痛みと上手く付き合う方法が見つかればと思います。

- ・心理的なサポートが大切と考えています
- ・痛みの適切な対応の普及に努めていきたい
- ・慢性の痛みについての対応の難しさを改めて認識させて頂きました
- ・心理的な配慮の必要性を感じました
- ・面談を通じてのメンタル面での対応に対する評価が望まれる。
- ・長時間座位のリスクとその後での運動との関係には愕然としました。座位時間の分散効果は ADHD の人には朗報かもしれないと思いました。
- ・医療機関との連携の取り方が今後の課題だと思う。
- ・痛みがあっても休むわけにいかない従業員がほとんどのため、どのように対処すべきか難しいと感じている。
- ・社員の感度を上げることがまず必要と感じた。
- ・痛みを消してほしい→痛み止めを出す、という単純な話ではないこと。
- ・客観的に判断できない
- ・まだ直面した経験がない
- ・治療と仕事の両立に対する指針がまだないので難しい
- ・背景にある精神的なものも考える必要性
- ・病院スタッフの腰痛、手関節の慢性的な痛み等を間近で見しており、非常に重大な問題であると考えています。
- ・作業効率低下や事故にもつながると思われるため、出来るだけ対応できる事は改善していきたい。

今後どんな企画を希望されますか。

- ・何でも可
- ・健康教育の仕方・工夫など
- ・認知行動療法の実践
- ・産業医と治療医の連絡、相談、連携について
- ・うつの方が一般外来に来られた時の診かた
- ・コロナ及びそのワクチンの後遺症の対応
- ・臨床に役立つ実践的な講演を希望します
- ・また、工学的な疼痛の見方、が拝聴させて頂きたい。
- ・慢性痛と補完代替医療の活用
- ・榎原先生には世話人をしていただいておりますが、将来的には日本人間工学会医療労働関連 MSDs 研究部会とコラボ企画、共催などしていただくと、ステークホルダがひろがり本問題に対する社会の認識も広がると思います。

- ・メンタルヘルス等
- ・一般の産業医向けの内容であれば
- ・疼痛関連学会のなかで産業衛生の企画
- ・学校医としての産業医について
- ・慢性痛とストレスの関係について
- ・看護・介護職での腰痛対策の実際について。具体例などあれば。
- ・痛みとストレスの関係性
- ・退屈でない話題
- ・作業手順を設計する際のガイドラインを作って欲しい
- ・もう少し具体的な成功例やうまくいかなかった症例提示をしてほしい。
- ・関東地区でもこのような企画があればよいと思います
- ・痛みについて産業医として「あるある」事例紹介
- ・できれば同じ様に産業医のセミナーとして同じ堺で開催をお願いしたいです
- ・腰痛検診の具体的な方法と治療について
- ・労災保険と、腰痛をはじめとする慢性疼痛都の取り扱いとについての対応に関しての知識。
- ・今回も有意義なセミナーを有難うございました。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・集学的治療により顕著な効果がでたケーススタディ
- ・具体的に痛みに対してどのような対応をしているのか、実例をあげて紹介していただきたい。
- ・具体的な産業医との連携例の紹介など
- ・様々な公的支援制度をまとめて整理・紹介
- ・患者さんからの話をもっと聞きたいです。
- ・慢性痛患者のリワークについて
- ・慢性疼痛への催眠やイメージワークを活用したアプローチ、トラウマが関わる慢性疼痛患者へのアプローチ、発達症や認知症を抱える慢性疼痛患者へのアプローチ
- ・長時間労働者に対する面接
- ・慢性疼痛に対して具体的に職場でできる取り組みなど。

その他

- ・主催して頂き有難うございました。お疲れ様でした。
- ・大変勉強になりました。運営お疲れ様でした。
- ・この度は貴重なお話を聴かせていただき、大変ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。

このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

